

彼方「かなた」

校長通信
H25.3.24
Vol.40

【自主貢献】



本日をもって平成二十五年年度のすべての教育課程を修了いたします。

今まで人としての生き方について皆さんにお話しをしてきました。例えば、一年生が今年度入学するにあたって話したのは、映画「ペイ フォワード」に出てくるトレバー少年を通して、「誰かのために自分ができることを考え、行動に移すことの大切さ」でした。二年生が入学するときは、「雨乞いの祈禱師」を通して、「決して諦めない、今を精一杯生きることの大切さ」について話をしました。覚えていますか？

そして二人に共通していることは、「誰かのために」ということです。

学校は、決して一人で学ぶところではありません。みんなで助け合って学ぶ場所です。その中で皆さんは、一年間「自主貢献」という学校教育目標を目指して、学校生活を送ってくれたと思っています。「自ら判断、行動し、助け合える生徒」簡単な言葉ですが、意識せずに実行できるようになるのはとても大変です。

夜回り先生って知っていますか？水谷先生は元定時制高校の生徒指導をされていた先生です。彼が関わった若者の中に、薬漬けの男の子がいました。いつも「死にたい」と言っては水谷先生の所に相談にきていたそうです。その彼に先生がアドバイスしたのは、自殺を止めることではなく、「どうしても死にたいのなら、誰かに一度でいいから優しくしてからにしない。」ということでした。そんなある日彼の部屋から毎日おばあさんが重そうにゴミ出しをしている姿が目に残りました。水谷先生の言葉を思い出した彼は、外に出て行き、おばあさんに声を掛けました。「俺、持ってたやるよ。」おばあさんは見知らぬ青年に一瞬躊躇したようですが、「ありがとう」と言って深々と頭を下げたのです。彼は次の日も声を掛けました。そして次の日も……。そのうち、水谷先生に「死にたい」という電話がかからなくなったそうです。そのかわりに「おばあちゃんと笑顔で挨拶ができるようになったんだ。」と報告する内容になったのです。ところが彼は、薬の誤飲で結果としては亡くなってしまいました。でも自ら命を絶つという選択は止めたのです。

なかなか見つからない人も少なからずいます。私は、教師という「人を育てる」仕事に就きました。その仕事をしているときに一番頑張れるし、楽しいのです。今は、教師が自分の「天命」だと思っています。では、みなさんが自分の役割に気づけるようにするにはどうしたらよいのでしょうか。それは、小さい頃から「誰かのために」ということを意識して行動することです。毎日の学校生活でも、今の入学式の練習でも言えることですが、自分の行為の元にある他に対する思いを意識して欲しいのです。何となく歌ったり、挨拶したり、拍手したりではなく、いつも相手のことを思ったり、仲間のことを考えたり、意識することがとても大切なことです。

みなさんは、この一年間、学校の教育目標「自主貢献」を意識し、自分で判断・行動し、助け合える生徒を目指して、様々な活動に取り組んできたことと思います。来年度も二年生は最上級生として、一年生は学校の中心として、どうしたらいい学級や学年、学校にできるかを考え、トレバー少年のように自分から行動を起こして欲しいと思います。そして雨乞いの祈禱師のように決して諦めることなく、最後まで続ける勇氣を持って欲しいと思います。

湖北中学校に必要な人は誰一人いません。湖北中にダメな生徒や悪い人は一人もいません。時々ダメなことをしてしまう人がいますが、それもみんなの力でやらないようにできます。可能性を沢山秘めているみなさんです。伸びしろが大きい学校です。一人一人ができることを考えて、来年度も素晴らしい学校づくりを一緒にしていきましょう！

